

つり光

No.172 2025. 12

発行 真言宗豊山派
北田山寶泉寺
所沢市北岩岡130
編集 色摩真了
ホームページアドレス
takaranoizumi.com

伝法大会を厳修してきました

真言宗豊山派の僧侶が一生の内に修めるべき重要な儀式に「伝法大会（てんぼうだいえ）」と「伝法灌頂（てんぼうかんじょう）」の2つがあります。この秋、住職がその1つ伝法大会を総本山長谷寺で厳修してきましたのでご報告致します。

伝法大会とは、あるお経の内容についてベテラン僧と青年僧侶が問答を行い、その出来を検定するいわば口述試験が儀

式化されたもの。平安時代より行われていて、当時はガチンコの試験だったようですが、現在は台本（図参照）があり、試験官役と受験生役に分かれた僧侶が朝々とその内容を読み上げる形式となっています。といってもこのテキストは全て漢文で書かれ、また節（音階）が付いているのでそれらを流暢に唱えるために何度も練習を重ね本番に臨みます（ちなみに私は受験生役でした）。

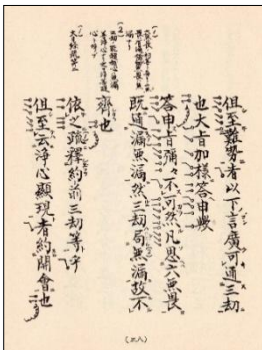
期間は1週間で今回の儀式受者は25名。主役である試験官役と受験生役の他にも出題役や判定役など様々な役がそれぞれに振り分けられ、朝は5時半から、およそ2時間の儀式が1日4回行われます。期間中の食事は精進料理で、

25名全員が大部屋で寝食を共にし、協力しながら共同生活を送るなど、何十年かぶりにこのような合宿生活を送るのもまた良い経験となりました。

今回、なかなかタイミングが合わず受けることのできなかつた大切な儀式を修めることができ、改めて通過儀礼の重要さを実感したところ。これからも一層の精進に励むぞと、気持ちを新たにしたのでした。



本番に臨む住職



伝法大会テキスト

今号から不定期でピアノとヴォーカルのプロである鎌田由美子先生にエッセイを書いていただきます。鎌田先生は所沢市内でアムジータという音楽教室を開いていて、多くの生徒さんを指導しています。興味のおありの方はそちらもぜひ検索してみてください！



音楽とともに生きる vol.1

はじめまして。ピアノや歌を指導したり演奏したりの日々。いつも美しさだけの音楽の中にいたいと願っている鎌田由美子と申します。ひよんなことからご住職とご縁をいただき、こちらに文章を書く事となりました。

さて、皆さんは「音霊（おとだま）」という言葉を知っていますか？言葉に宿る神秘的な力「言霊」と同様、地球上に溢れる「音」＝「周波数」は人間に大きな影響を与えているのではと考えられていて、その力を「音霊」と言います。

私自身は特にクラシック音楽と日々触れ合っている事でとても救われてきました。「音楽の中に入っているような心地」で「言葉のない音楽」を聴いたり演奏したりする過程を通じ「聴く」ではなく「浸かる」感覚。

皆さんも自覚がなくとも思ったより「音」から多くのよい影響を受けているのかもしれませんが！そんな音楽にまつわるお話をつらつらと綴って参りたいと思います。



聲明コンサートのお誘い



聲明（しょうみょう）とは、節（音階）のついたお経のこと。真言宗豊山派の聲明は音楽的な評価も高く、しばしばコンサートが開かれています。

このたび、令和8年3月1日の14時より狛江市のエコルマホールにて聲明コンサートが開催されることとなりました（全席指定3,000円）。住職も出仕しますので興味のおありの方はお気軽にお運びください。お申し込みは狛江エコルマホール 03-3430-4106 まで。



NHK大河ドラマ 豊臣兄弟！

令和8年のNHK大河ドラマは豊臣秀吉の弟「豊臣秀長」が主人公です。実は、真言宗豊山派総本山、奈良の長谷寺は秀長によって復興された歴史があり、豊山派の衣やお袈裟には豊臣家の五七桐紋が入っています。そんなストーリーも放送されたら嬉しいなあ。ぜひご覧ください！

老僧のつづき ②6

小僧(しょうそう)にはタイ在住が50年にもなる古い友人がいます。彼とは若い頃障害児の通園施設で一緒に働いていましたが、思うところがありお互い30才で退職しました。彼はバングラデシュからタイのNGOへ、そして小僧は寶泉寺へと道は違えども交流は続いておりました。昨秋バンコクの自宅で会ったときには体調の変化を語り、話題は冗談ながら互いの終活のことなどにも及びました。他国で暮らす彼にとっては自分事としてせまるものがあったのでしょう。

今年になって稀少な血液のがんで亡くなったこと、そしてパタヤ郊外の海に散骨されたことを知り、先月パタヤまでお線香の1本でも、との思いで行って来ました。思い起こせば昭和59年、初めての海外旅行は彼を訪ねてのタイで、北タイを車で一周したことなどを懐かしく思いながら、持っていったお線香をそっと砂浜に立てて冥福を祈って来ました。

タイ仏教では今でも火葬の後、海や川への散骨が一般的で、墓地は設けられないそうです。その原初をたずねれば民俗学、宗教学的にいわれる「遺棄葬」だったのでとは考えられます。日本でも古くは「遺棄葬」があり、山の向こうや海の彼方へと亡骸はなるべく遠くに葬るものでした。その意味は死の災いやおののきから遠ざけることだったようです。ほぼ100%火葬の時代ではこのような情感は絶えて久しく、長い歴史的な変遷をたどり現今の葬制になったものです。



特にコロナ以降、世の動きはめまぐるしくどのように変わっていくのかも予測が付きませんが、大事な人を失ったときにこそ心のやすらぎを取り戻せる葬制やお寺としての役割も求められていることをひしひしと感じています。

散骨ポイントはパタヤ郊外のアメリカ海軍基地の一角にあったが、突然の訪問で入場はできなかった。

第40回



元旦 お経の会

日時：令和8年1月1日 午前0時と午前9時の2回
会場：寶泉寺 本堂（直接本堂正面からお入りください）



あしなが育英会寄付報告

今年も皆さまからお預かりしているお布施より「177,300 円」をあしなが育英会に寄付いたしました。謹んでご報告申し上げます。

年 回 表 令 和 八 年

| | |
|-------|-------|
| 一周忌 | 令和7年 |
| 三回忌 | 令和6年 |
| 七回忌 | 令和2年 |
| 十三回忌 | 平成26年 |
| 十七回忌 | 平成22年 |
| 二十三回忌 | 平成16年 |
| 二十七回忌 | 平成12年 |
| 三十三回忌 | 平成6年 |



来、年、丙午（ひのえうま）の
年、丙午（ひのえうま）の
丙午（ひのえうま）の
を、表すので、二つの「ひ
重なるので、情熱や行動力
が高まる勢いのある年だそ
うです。ぜひそうなって欲し
いとします。

編 集 後 記

- ・今年を振り返ると、とにかく体調の優れない日が多かった。月に1,2度は頭痛、倦怠感に悩まされ、微熱が出ることもしばしば。50歳を目前にもしかしたら更年期かなと思いつつ、令和8年は「老い」をテーマにしたいと考えています！
- ・初めての落語（演じる方）に挑戦！40人のお客様の前で初登壇。演目は「寿限無」で、すごく良い経験となった。なお高座名は「薬師亭コウネンキ」（真了）

- ・小僧の父は明治39年生まれ、丙午の年だった。この年生まれの女性は・・・と言う話もした記憶がある。また父のことを思い出している。
- ・タイに行って円安を肌身で感じてきた。以前2千円で買った物が今では3千円になった感覚である。
- ・寶泉寺ご本尊薬師如来のご加護あらんことを切に切にお祈り申し上げます。

Dec. 21. 2025（琴）